

バセンジーに恋して

極めて私的な話で恐縮ですが、子ども家族の新居祝いとしてペットの犬を贈ることになり、子ども家族が相談してバセンジーBasenji という珍しい種を選びました。実はこの犬種はわが家がかつて飼っていたのと同じ種で、娘にはその頃の印象が強かったのだと思います。

世界畜犬連盟 FIC によれば、現在ペットとしての犬は 359 種が登録されていますが、その中でも珍しい種と言えるでしょう。体高は 45~50cm 程度の中型犬で、右の写真のようにスラッとした足、短毛、立った耳というシャープな体躯が特徴です。「ワン」と吠えることのない犬種で、たまにヨーデルのような遠吠えをする程度だと記されています。見た目は古代エジプト遺跡に飾られているファラオファウンドに似ています。



しかし、とても「飼育甲斐のある」犬で原産地は中央アフリカ、コンゴ川流域地方とされ、猟犬としてブッシュの中を集団で激しく駆け回っていたらしく、原種は周囲のブッシュに馴染むようなブリンドルです。狩猟犬のため声を発することがないと、私が調べた本に記されていました。発見は 19 世紀末だったそうですが、1960 年代になってイギリスでペットとして飼い慣らされたという比較的新しい種です。ここで本来のトライカラー、赤(茶)白の 2 種類が作り出されました。いずれも白い首筋と四肢が特徴 数ある子犬の中から 1 匹を選択 種と伝えられています。



出会いが始まる

ただ、現在、日本国内にはバセンジーを専門とするブリーダーは少なく、今回は広島まで引き取りに行きました。一般社団法人ジャパンケンネルクラブ(JKC)でも登録数はわずか27(2024年1月～12月)です。私が飼っていた頃はもう少し多くて56～60頭程度だったと記憶しています。わが家で飼っていた雌は、留守番した時に近所の方が「ウォ～ン」という声が聞こえたと教えてくれたというだけで、私自身1～2度だけ鳴き声を聞いたことしかありません。当時は散歩をしてもドッグランでも「珍しい犬種ですね」と、よく声をかけられたものでした。

鳴いたり吠えたりしないのはいいですが、飼育上の最大の難点と言えば猟犬の名残があるのか、活発な運動量で一日60分程度の散歩が朝夕2回は必要です。中型犬ながら1m程度のフェンスは平気で飛び越えてしまいますし、やんちゃな頃は木製の家具やドア、網戸などをよく壊したりもしました。あるサイトによれば、「躑の入りにくい犬」ワースト2位に選ばれています。その分、イヌとしての集団特性をしっかりと持っており、手懐けるのが大変な分おもしろい犬です。

バセンジー仲間は町田街道とニュータウン道路が交差する付近にもう1家族おり、多摩境や鏈水辺りで私の子どもたちの飼う犬を見かける人もいるかも知れませんね。



まだまだ新しい環境には…

参考資料

<https://www.chewy.com/education/dog-breeds/basenji> (Jan.7,2025)